

幸せな関係をつくる恋愛 〜予期せぬ妊娠と中絶〜

杉山誠一

Sugiyama Seiichi
東京都私立大東学園高等学校教諭

はじめに

前任校では、私は保健体育の授業で、高校1年生に「生涯を通じる健康」という章で、「思春期と健康」、「妊娠・出産と健康」、「家族計画と人工妊娠中絶」、「エイズとその予防」などの授業を行っていました。私が初めて性教育に触れたのはこの時でした。授業の準備をするにあたり、教科書をベースに、様々な本やインターネットで調べながら教材をつくっているときに、自分の無知を痛感しました。その頃は、保健体育の教員でありながら、月経や射精がどのよう

なしくみで起こるのかも、妊娠週数の数え方も知りませんでした。

そんな私が中絶の授業をする時に、真っ先に頭に浮かんだものは、「中絶は悪」、「身勝手な性行動の結果として子どもの遺棄・虐待があるのだ」という決め付けでした。私は生徒に中絶をして欲しくない一心で、生徒の不安を煽って、恐怖を植えつける授業をしていました。中絶手術の具体的な方法を紹介し、手術によって不妊になった例や後遺症を紹介しました。また、保護責任者遺棄事件や虐待事件などを取り上げ、時には脚色を加えながら授業を行なってい

ました。その時は、生徒の感想を見て満足していませんでした。

しかし、私は大東学園で「性と生」の授業に出会い、その授業は誤りだったのではないかと感じるようになりました。これまでの授業では、子どもたちがセックスや中絶に対する強い嫌悪感や恐怖感を抱くだけで、生まれてくる子どものことを考えたり、互いに思いやって接したりするためにどうしたら良いかを考えることはなかったと思います。

妊娠も中絶も女性のからだに起こることですが、その過程には必ず男性も存在します。つまり関係性の問題なのです。恐怖心や不安な気持ちで中絶を避けるより、互いの気持ちを理解し、互いを大切にすることはどんなことを考えた結果として中絶を避けられる方が大事だと思いました。

そこで私は、中絶の授業をするうえで、相互理解が最も重要だと考えました。まず、お互いの意見を交流し、深めるために、女子には「今、妊娠したら？」という問いを、男子には「今、妊娠したと言われたら？」という問いを投げかけました。そして、いくつかの問いから、男女それぞれの意見を集めると、共通点と相違点が見えてきました。それらを互いに共有した上で、様々な知識を伝えるようにしました。

以前の授業では、「中絶は怖い」「ぜったいに嫌だ」「気分が悪くなった」という感想ばかりでしたが、関係性を重視し、相互理解を深めることに重きを置いた授業では、相手との関係性をどうすべきかという視点が感想の中に含まれるようになったと思います。次の授業で扱う「避妊」も関係性の問題です。互いの考えを共有した後なので、ただ避妊の方法を知るだけではなく、避妊に協力できる関係づくりにはどんなことが必要なのかまで考えられるようになりました。

この授業は、男女の性機能や生命誕生について学習した後の授業であり、恋愛を軸に関係性を学ぶ授業の1つです。

「中絶を不安や恐怖で終わらせたくない」、「中絶も1つの選択肢である」という考えを大切に、自分も

幸せな関係をつくる恋愛

高校1年生同士のカップル。
どうやら彼女が妊娠したようです。

女子はこっちの問題

- ① 妊娠をどうやって確認しますか？
- ② 妊娠が分かったら、誰に相談しますか？
- ③ 妊娠したことを相手にどう伝えますか？
- ④ 今後、どうしますか？
- ⑤ 相手にどういう態度やことばを期待しますか？
- ⑥ あなたは高校1年生で母親になることについてどうおもいますか？

男子はこっちの問題

- ① 彼女が妊娠したかもしれないと言ってきたとき、あなたはどの対応しますか？
- ② そのことを誰に相談しますか？
- ③ 彼女は産みたいと言っています、あなたはどの応えますか？
- ④ 彼女は産むのは無理だと言っています、あなたはどの応えますか？
- ⑤ 産む場合と産まない場合、それぞれいくら費用がかかりますか？
- ⑥ あなたは高校1年生で父親になることについてどう思いますか？

相手も生まれてくる子どもも幸せになるために何が
必要かを考える授業です。

男女別の授業、男女一緒の授業とありますが、こ
こでは、男女別の授業を紹介します。

授業の展開

◎導入

予期せぬ妊娠について、どのようなことを考えて
いるかを知るためのアンケート（左頁の資料①）を
行ないます（男女別々にアンケートをとります）。

◎展開①

「高校1年生で妊娠したら」ということを想像して
考えます。それぞれの意見や考えを発表しながら全
体で交流します。交流の方法はポストイットや画用
紙に意見を書かせて前に張り出す方法や、一人ずつ
意見を聞いて黒板に書き出していく方法などがあり
ます。



私の授業では、最初の5分でアンケートをとしま
す。アンケートは無記名で行ない、できた人から順
に回収します。全員分集まったら、シャッフルし、
配りなおします。基本的には自分のもの以外のフリ
ントが渡るようにします。

そして、それをもとに、1つ1つの問いに対して
何人かに発表させ、意見を交流していきます。この
方法は、自分以外の意見を発表するので、他者がど
のように考えているのかよく分かります。また、自
分の意見をなかなか言えない生徒も自分の意見では
ないので、発言できるようになります。更に、他か
ら発せられた自分の意見が議論を呼び、その中で自
分の意見を出すこともできるし、自分の意見が他か
ら指摘を受けて、新たな発見に繋がる場合もありま
す。この時は、まずは聞き出していくことに努め、
コメントはほとんどしません。すべての意見が前に
示されたあと、全員で共通点や相違点、気になるワー
ドをチェックしていきます。

その後、それらに対する疑問点や問題点について

少人数のグループで話し合ってもらいます。

実際にこれまで議論としてあがったのは、高校を続けられるのか？という問題や、お金の問題、誰に打ち明けるかなどです。

時間的に余裕がある場合は、話し合った内容を、代表者に発表してもらい、最後に感想を書きます。そこで、1時間目が終わります。

◎展開②

次の時間は、前の授業の感想と女子のアンケートの結果を出し交流していきます。

例えば、「彼には打ち明けずに、こっそり中絶する」と言った女子のコメントに対してみんなで意見を出し合いました。

それらの交流を終えた後、中絶についての授業を行ないます。ポイントは、

- ・妊娠週数の数え方
- ・中絶の時期と方法
- ・予期せぬ妊娠を避けるためにどうするか

生徒たちの感想

授業後の感想は、

○まだよくわからないけど、予期せぬ妊娠を避けるためには避妊が大事。

○妊娠しても誰にも言わずに中絶するのは悲しい。自分だったら話して欲しい。

○中絶の手術は本当に怖いというか、残酷だと思えます。でもそれがしょうがないという時があるのが人間だという話を聞いて、なんて言っているのか分からないけど勉強になりました。

○妊娠をすることは本当に大変なことなんだと分かった。大人になるまでもっとよく考えないといけないと思った。

○自分がセックスするときには、かならず避妊をしようと思った。

○いま妊娠しても産むのは無理だと実感した。よく考えておきたい。

○妊娠したらなんて考えたことなかったけど、実際

・緊急避妊薬の紹介
(73頁の資料②、授業プリント)

◎まとめ

最後に、授業で考えたことや感想を書いて2時間目が終わります。感想のところでは、

予期せぬ妊娠を避けるためにどうしたら良いかを考えさせるようにこちらから投げかけます。

中絶は避けたいものです。しかし、選択せざるをえない場合もあります。中絶は1つの選択であり、「生きなおし」だと私は考えます。生まれてこられなかった子どもの分も、幸せになるという気持ちを持つことも大切ではないでしょうか。

この授業を終えて、「幸せな関係を築くために、相手との接し方をどうすれば良いのか？」ということを実践に考えるきっかけになれば良いし、次の「避妊」を考えさせる授業に繋がっていきます。

考えてみるとどうしたらいいか全然わからなかった。今回勉強できてよかった。

○中絶はしたくないことだけど、産めないことだとしてあると思う。産めないのに妊娠してしまうのはいやだなと思った。

まとめと今後の課題

冒頭でも触れましたが、私は以前、人工妊娠中絶の恐怖教育を行なっていました。恐怖では、根本的な解決にはならないと感じ、どのように授業したらよいかを模索していました。

試行錯誤の末、中絶の授業を、「女性にとつての選択の一つ」、「女性の権利の一つ」であるという視点で行なうようになりました。

最初の取り組みでは女性のからだにのみ起こることなので私は、「妊娠も中絶も女性に起こる事だから、女性をいたわらなければいけない」や、「男子はそもそも背負っているものが違う、だから女性をいたわ

りなさい」という想いをぶつけてきました。

しかし、この授業では、男子が元気をなくしていききました。居つらさのようなものが教室を漂っています。私は、男子の気持ちを考えていませんでした。

私の公開授業を受けてくださった方の感想で、

現状としてはあまりに女性の負担に対して無知だったり、想像力を持たなすぎる男性が多いため、いたわる言葉が欲しい、と思ったが、教師のメッセージとしてのプリントにそれが出されると、男子は何も言えなくなるだろうし、女性としても居心地の悪いものを感じる。流れの中で、男子個々人が考えてくれれば良いと思うので、「ごめんね」と言ってくれば、「別にいいよ。たまたま私が女性だっただけなんだから」と答えるのですけどね。

というものがありません。あくまでも普通に接して欲しいという意見をいただき、教師がどういうスタ

これも公開授業のときに参加者の方からいただいた言葉で気が付くことができました。関係性だけにとらわれて、生まれてくる子どもや生まれてくることのできなかつた子どもについて考えることができませんでした。

更に、その公開授業では、「中絶のことを考えることも大事ですが、誕生の喜びや感動を扱って欲しい」という意見もいただきました。

私の授業は、恋愛の性や快楽を求める結果、妊娠してしまうことがある。中絶が一つの選択肢の場合もある。二人の関係性をどうしていくか。幸せな関係をつくるために何が必要なのか？という2人の関係性を視点に置いた授業です。

教師のスタンスがどうあるべきか、そして生まれてくる子どもを育てる責任についてどう考えさせるのか、誕生の喜びや感動をどこで感じさせるのか、まだまだ課題は残されています。

ありがたいことに大東学園では週に1時間、「性と生」の授業が確保されています。1学期は、「産む性



ンスでいけば良いのか再び考え直す必要があると感じました。

それから、男子を責めすぎて、男子の居心地が悪くなったり、女子を持ち上げすぎて、女子

の居心地が悪くなったりしないよう心掛けました。教師として、どういうスタンスで授業に臨むのか難しさを知りました。

私が見落としていたのは、それだけではありませんでした。私は、2人の関係性の中で中絶を考えていくことに頭がいっぱいで、中絶も考えられただけで生まれてきた子どものことはあまり考えていませんでした。

授業の中で、「望まない妊娠」という言葉を使っていたけれど、もし、熟慮の末、生まれてきた子どもがその中にいたとすれば、「望まない妊娠」という表現を聞いたときに「自分は望まなかったのか」という気持ちにさせてしまいます。「望まない妊娠」ではなく、「予期せぬ妊娠」というふうに言い方を変える配慮が必要でした。



について、2学期は、「関係性の性」、3学期は、「自己中心的な性」や「多様な性」について学習します。中絶の授業だけで今ある課題をすべて網羅することは難しいかもしれませんが、1年間の授業の中で、カバーしていければと思っています。

中絶の授業を発展させるためにも、授業を公開して、たくさんの人から意見をいただきながら授業をつくっていききたいと思っています。

この間、生徒の声も大きく変化してきました。「中絶はサイテー」という感想から「中絶はしたくないことだけど、産めないことだってあると思う。産めないのに妊娠してしまうのはいやだなと思った」という感想が出てくるようになりました。

これからも生徒の授業感を大切にしながら、「幸せな関係をつくる恋愛」の授業を実践していきます。

性・人間・生きる

■ ■ ■ 今回は中絶について学習していきます ■ ■ ■

中絶は子宮内膜に着床した胎児をとりだしてしまうことですから、女性には大きな負担がかかります。また、**条件がどうであろうと**自分の体内にある命を抹消することは、こころもからだも傷つけます。

ですから、できる限り「中絶など選択しなくていい関係」をつくってもらいたいと思います。

日本では「母体保護法」という法律で条件付きですが認められています。

1. 妊娠の継続又は分娩が身体的又は経済的理由により母体の健康を著しく害する場合。
2. 暴行若しくは脅迫によって又は抵抗若しくは拒絶することができない間に姦淫されて妊娠した場合。

ですが、人間の感情や行動は常に理屈や理性に基づいて、きっちりできるわけではありません。とくに恋愛、性愛がからんでくるとき、人は冷静でないことの方が多いかもしれません。

中絶は、**妊娠週数** 週以降は認められていません。
妊娠12週未満の中絶を初期人工妊娠中絶といい、12週以降 週未満を中期人工妊娠中絶といいます。

Q 1 ▶ 妊娠週数を数えるときはいつから数えはじめるの？

1. セックスした日
2. 排卵日
3. 受精した日
4. 最終月経の初日
5. 来る予定だった月経日

初期中絶と中期中絶では、手術や処置が異なるので金銭的に差があります。そして、中期中絶の方が母体に与える負担や影響が大きいです。

■ ■ ■ 初期中絶 ■ ■ ■

- 頸管拡張後、掻爬という方法で行なわれます。
- 処置は5分～10分。日帰りで手術を行なえますが、一泊入院がお勧めです。
- 胎児が小さい早い時期であれば負担は少なくすみます。欧州各国で中絶を認めている。
- 国では、この手術が可能な時期までを中絶可能な時期と定めているようです。
- 費用は10万円前後です。(病院によって異なる)

■ ■ ■ 中期中絶 ■ ■ ■

- 出産と同様の形をとります。薬で陣痛を起こし、早産させる方法です。
- 産むのと同じ女性のからだの機能を使って、育ちきれていない胎児を母体から出してしまう方法です。
- 入院が必要です。(3～5日)
- 費用は30万円前後です。(病院によって異なる)
- 手術後「死産届け」を役所に出します。

なので、妊娠した時、「産む」か「産まない」ということの決断を早くしなければなりません。

妊娠するのは女性だけです。中絶の手術を受けるのも女性だけです。だから、体内にやどった生命をどうするかという最終的判断は女性自身が決めなくてはなりません。逆に言えば、だれも彼女に産む産まないを強制することはできないということです。

そして、中絶手術は確実に女性のこころとからだを傷つける行為であることは、女子たちはもちろん、男子も知っておかなければなりません。

妊娠は女性のからだに起こることです。男子は、セックスの無理強いや、避妊の非協力、妊娠後の責任放棄が、暴力であるということを肝に銘じてください。

最後に…中絶は絶対に避けたいものです。でも、相談して、熟慮の末ギリギリのところの中絶を選択する時があるのが人間だと思います。

中絶は女性に許された救済の1つです。生まれてこられなかった子どもの分も、幸せになるという気持ちを持つことだってできるのではないのでしょうか。その意味で、中絶は「生き直し」だと僕は考えます。

そして、同じ過ちを繰り返さないで、次に生まれてくる子どもを大切にしたいです。

◎こんな方法もとれます

【モーニングアフターピル】

避妊に失敗した時やレイプなどの場合、婦人科や産婦人科で入手できる飲む緊急避妊薬です。中用量ピルを一定量服用することで強制的に月経を誘導するものです。72時間以内であれば一定の効果があります。「母体保護法指定医」であれば処方してくれます。

【里親】

里親制度のある自治体もあります。きちんと産んで将来を他者へ託す方法もあります。